

大会TSG



U16年代

U16関西トレセンリーグ

国体近畿ブロック予選

愛媛国体

- 各FAの取り組みの成果を確認する場であり、
トレセン活動の集大成
- 育成年代の集大成として個人戦術とテクニックの完成期

大会全般

U16関西トレセンリーグ (前期)

◆ 日程・場所

4/23(日)、5/28(日)、6/11(日)、25(日)、7/9(日)
J-Green堺

◆ 参加チーム

近畿2府4県のU16で選抜された6チームによる
総当たりリーグ戦

(上位2チームは8月に行なわれるミニ国のシード権獲得)

◆ 試合時間

70分(35分ハーフ)

大会全般

U16関西トレセンリーグ (前期)

2017関西トレセンU-16リーグ 前期 星取表

7月9日確定版

	大阪府	京都府	滋賀県	兵庫県	和歌山県	奈良県	勝	分	負	勝点	得点	失点	点差	順位
大阪府	○	○	○	○	○	○	5	0	0	15	18	3	15	1
京都府	●	○	○	○	○	○	4	0	1	12	11	7	4	2
滋賀県	●	●	○	●	○	●	1	0	4	3	6	16	-10	5
兵庫県	●	●	○	○	○	○	3	0	2	9	12	4	8	3
和歌山県	●	●	●	●	○	●	0	0	5	0	4	26	-22	6
奈良県	●	●	○	●	○	○	2	0	3	6	10	5	5	4
							15	0	15		61	61	0	

○: 勝ち3点 △: 勝ち1点 ●: 負け0点

- 1位. 大阪府 15(+15)
- 2位. 京都府 12(+4)
- 3位. 兵庫県 9(+8)
- 4位. 奈良県 6(+5)
- 5位. 滋賀県 3(-10)
- 6位. 和歌山県 0(-22)

【滋賀県の戦績】

- 4/23 ●滋賀 0-5 兵庫
 - 5/28 ●滋賀 0-2 奈良
 - 6/11 ●滋賀 0-1 京都
 - 6/25 ●滋賀 0-7 大阪
 - 7/9 ○滋賀 6-1 和歌山
- 1勝4敗 得点6 失点16

大会全般

国体近畿ブロック予選 (三二国)

◆ 日程・場所

8/11(金)、12日(土)、13日(日)

3連戦

兵庫県立三木総合防災公園球技場(みきぼうパークひょうご)

◆ 参加チーム

近畿2府4県のU16で選抜された6チームによる
ノックアウト方式

(10月に行なわれる愛媛国体の近畿代表3チームの決定)

◆ 試合時間

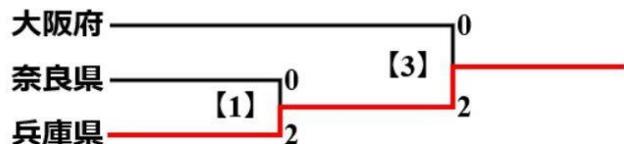
70分(35分ハーフ)

同点の場合は、20分の延長戦(10分ハーフ) ⇒ PK戦

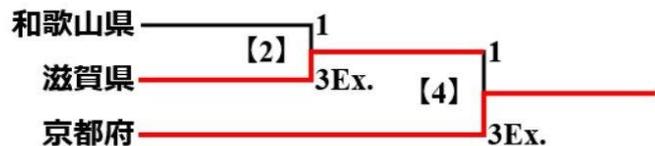
大会全般

国体近畿ブロック予選 (三二国)

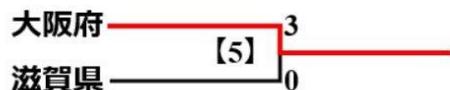
第1代表決定戦



第2代表決定戦



第3代表決定戦



第1代表 兵庫県

第2代表 京都府

第3代表 大阪府

【滋賀県の戦績】

8/11 一回戦

○滋賀 3-1 和歌山

8/12 第2代表決定戦

●滋賀 1-3 京都

8/13 第3代表決定戦

●滋賀 0-3 大阪

滋賀の戦い

国体近畿ブロック予選 (三二国)

- ◆ メンバーの選出 早生まれ、直前の怪我
- ◆ 3試合全てで先制される苦しい展開
- ◆ 3試合中2試合で延長戦
- ◆ 失点の時間帯
- ◆ 終了間際の得点
- ◆ 20人のうち19人が出場

大会全般

国民体育大会 (愛媛国体)

◆ 日程・場所

10/1(日)、2日(月)、3日(火)、4日(水)、5日(木)

新居浜市営サッカー場(グリーンフィールド新居浜)

西条ひうち陸上競技場

◆ 参加チーム

9地域ブロック大会を勝ち抜いてきた23チーム

+開催地愛媛県の24チームによるノックアウト方式

◆ 試合時間

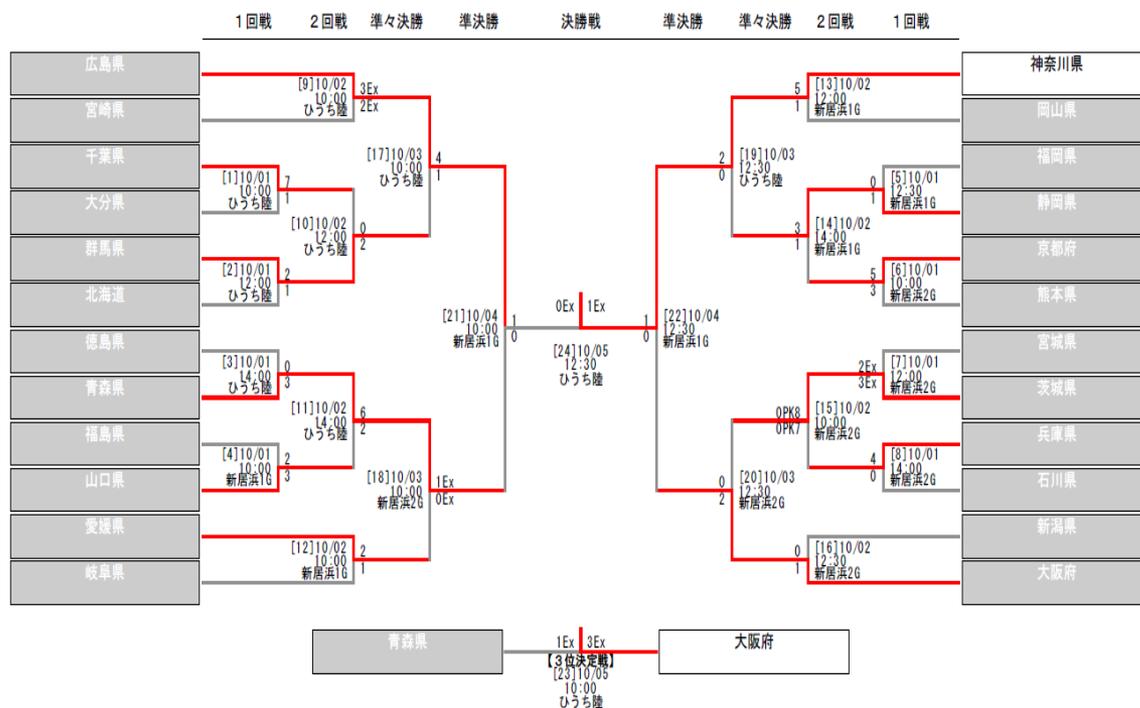
70分(35分ハーフ)

同点の場合は、20分の延長戦(10分ハーフ) ⇒ PK戦

大会全般

国民体育大会 (愛媛国体)

第72回国民体育大会 (サッカー競技) 少年男子



- 優勝 神奈川県
- 準優勝 広島県
- 第3位 大阪府
- 第4位 青森県

大会TSG



U18年代

春季総体(インターハイ予選)

近畿大会

高校サッカー選手権大会

- 育成年代の最終カテゴリーとして、
ゲームの大局観を身につける
- 自分達のコンセプトを理解、共有してプレーし、
その中でゲーム状況、流れを感じて戦い方を判断する

大会全般

春季総体 (インターハイ予選)

◆ 日程・場所

5/14(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、6/1(木)、3日(土)

連戦

中一日

布引運動公園、ビックレイク、スポーツの森、県内各高校G

◆ 参加チーム

50チームによるノックアウト方式

(統合チーム2、合同チーム1を含む)

◆ 試合時間

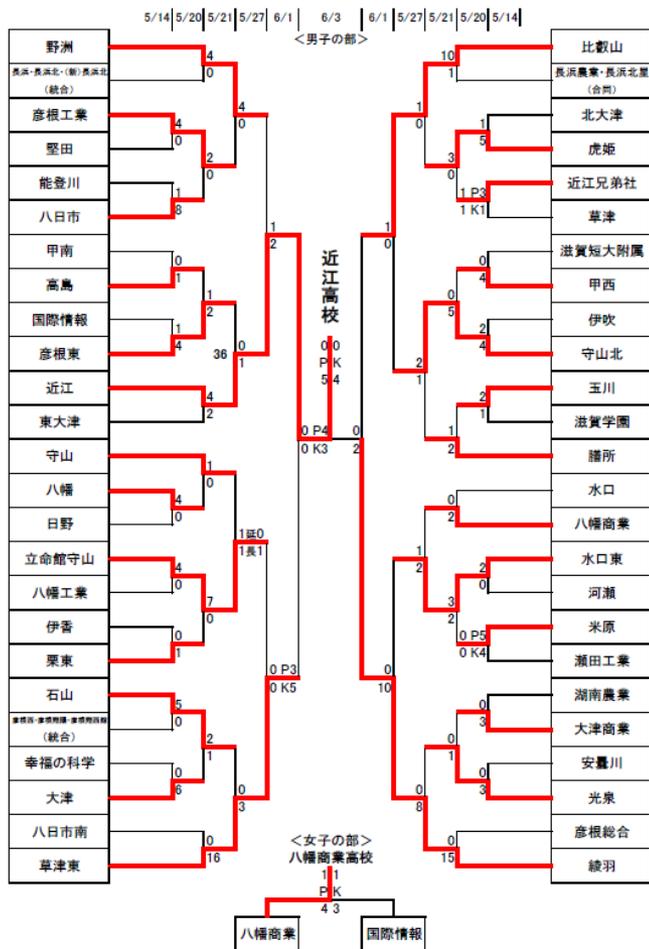
70分(35分ハーフ)

同点の場合は、PK戦

3回戦以降は、20分の延長戦(10分ハーフ) ⇒ PK戦

大会全般

春季総体 (インターハイ予選)



優勝 近江高校

準優勝 綾羽高校

第3位 草津東高校、比叡山高校

2点差以内の試合(内、PK戦)
27試合(内、PK戦5) / 49試合中
準々決勝以降...6試合(PK戦3)

5点差以上の試合
10試合
準々決勝以降...1試合(10-0)
一、二回戦...8試合 / 34試合中

大会全般

近畿大会

◆ 日程・場所

6/17(土)、18日(日)、19日(月)

3連戦(2日目は2試合)

上富田スポーツセンター、田辺スポーツパーク

◆ 参加チーム

近畿6府県のインターハイ予選を勝ち抜いてきた16チーム

大阪4、兵庫3、京都・滋賀・奈良・和歌山2、開催県(和歌山)1

◆ 試合時間

70分(35分ハーフ)

同点の場合は、PK戦

決勝戦のみ、20分の延長戦(10分ハーフ) ⇒ PK戦

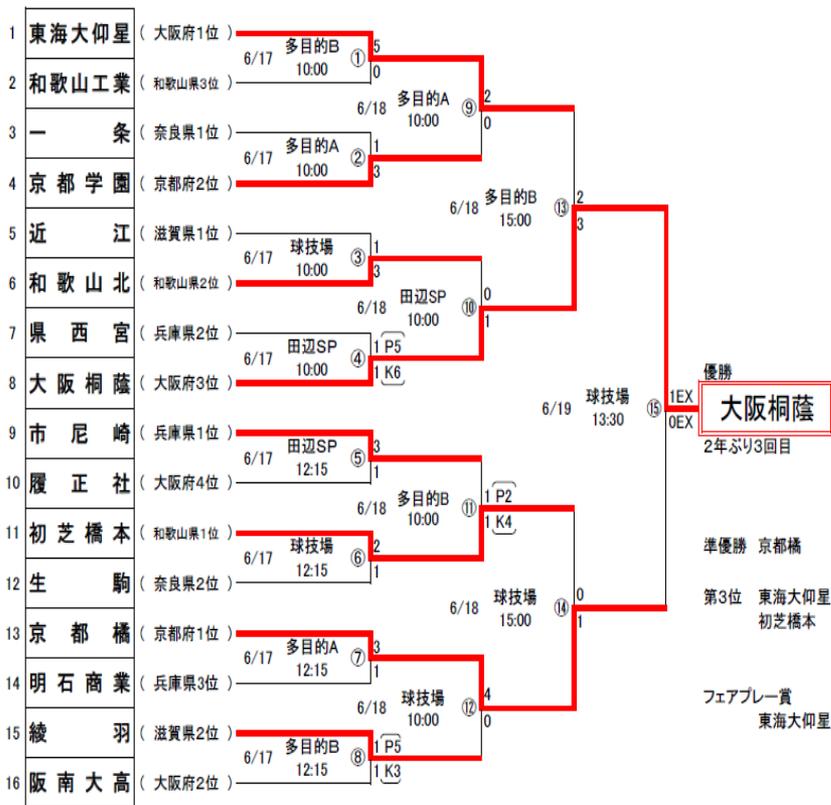
大会全般

春季総体 (インターハイ予選)

最終結果

2017/6/19

第70回近畿高等学校サッカー選手権大会<男子>



優勝 大阪桐蔭
準優勝 京都橘
第3位 東海大仰星・初芝橋本

2点差以内の試合(内、PK戦)
13試合(内、PK戦3) / 15試合中

5点差以上の試合
1試合(5-0)

【滋賀県勢】

一回戦:近江 1-3 和歌山北
一回戦:綾羽 1-1(PK5-3) 阪南大高
二回戦:綾羽 0-4 京都橘

大会全般

秋季総体 (高校サッカー選手権予選)

◆ 日程・場所

10/21(土)、26日(木)、28日(土)、11/4日(土)、11(土)、18日(土)

中一日

皇子山陸上競技場、ビックレイク、スポーツの森、県内各高校G

◆ 参加チーム

49チームによるノックアウト方式

(統合チーム2、合同チーム1を含む)

◆ 試合時間

80分(40分ハーフ)

同点の場合は、PK戦

3回戦以降は、20分の延長戦(10分ハーフ) ⇒ PK戦

U16-18年代.滋賀県(県内大会)の成果と課題

攻撃の成果

- ◆ スタイルを貫くチームが増えてきた
 - ・ボールを保持し、相手ゴールを目指すポゼッション重視のチーム
 - ・守備ブロックを形成し、カウンター攻撃を目指す堅守速攻型のチーム
 - ・サイドを起点に仕掛け、相手のスペースを狙って崩そうとするチーム
- ◆ 攻守の切り替えを速くし、相手の守備が整う前に攻める
 - ・ボールを奪った後、相手DFの背後やサイドのスペースを突く
 - ・ロングボールで相手DFの背後を狙いつつ、セカンドボールを拾い、再度チャンスを作る
 - ・カウンター攻撃
- ◆ サイドを有効に使った攻撃
- ◆ 勝負へのこだわり、最後まであきらめない
 - ・試合終了間際での得点

U16-18年代.滋賀県(県内大会)の成果と課題

攻撃の課題

- ◆ 相手の前線からのプレスに対してビルドアップできる攻撃の組み立て
- ◆ 相手の状況を観ながらポジションを取り続け、パスの出し手と受け手のタイミングを図る
- ◆ 人数をかける守備に対応できる攻撃と判断力
- ◆ アタッキングエリアでのプレーの質
 - ・決定機を決めきれない(ex.GKとの1vs1を冷静に決めきれない)
 - ・ミドルシュートはトライ自体が少ない(シュートレンジが狭い)
 - ・ラストパスの質
 - ・クロス(速くて正確なボール、グラウンダーのパス < 放り込む)
- ◆ 個の能力で局面を打開できる選手は少ない
- ◆ セットプレーからの攻撃(キックの質)
- ◆ 奪ったボールをしっかり繋ぐ

U16-18年代.滋賀県(県内大会)の成果と課題

守備の成果

◆ 狙いを持った守備

- FWの前線での規制からコースを限定し、中盤に人数をかけて奪う
- 前線のプレスから、タイトな守備で相手に前を向かせずプレスバックで奪う
- DFとMFでブロックを作り、縦パスやドリブルでの進入に人数をかけて守る

◆ ゴール前の身体を張った守備

- シュートへの寄せ、シュートブロック、スライディング、コースの限定

◆ 空中戦での競り合いは、高さとパワー、気迫を持ったセンターバックが多かった

◆ 個人のボール奪取力は高くなってきた

U16-18年代.滋賀県(県内大会)の成果と課題

守備の課題

- ◆ ボール保持者の状況や味方のポジション、プレッシャー具合からの予測と判断が不十分(スタートポジションが遠い場面が多い)
- ◆ 相手の攻撃を十分に予測できる状況にも関わらずボールを奪いきれない
- ◆ クロスやロングボールへの対応
 - ・ヘディングの強さ
 - ・チャレンジなのかカバーなのかといった判断の精度
- ◆ セットプレーの守備
 - ・不用意にFKを与えない
 - ・セットプレー時のマーク
- ◆ 不用意なファールをしない

U16-18年代の今後に向けて —関西や全国の技術・戦術的分析から—

攻撃

- ピッチを広く使いながら攻守の関わりを多くし、状況を観ながらシンプルにボールを動かしつつゴールを目指す
- アタッキングエリアでの崩し方の工夫
- 奪ったボールを繋げるテクニック
 - ・奪った選手の判断
 - ・周りのサポート
- 個人戦術とテクニックのレベルを上げ、それらをベースにチームとして戦う
- チームとしての方向性を共有する
- ゲームの大局観

U16-18年代の今後に向けて — 関西や全国の技術・戦術分析から —

守備

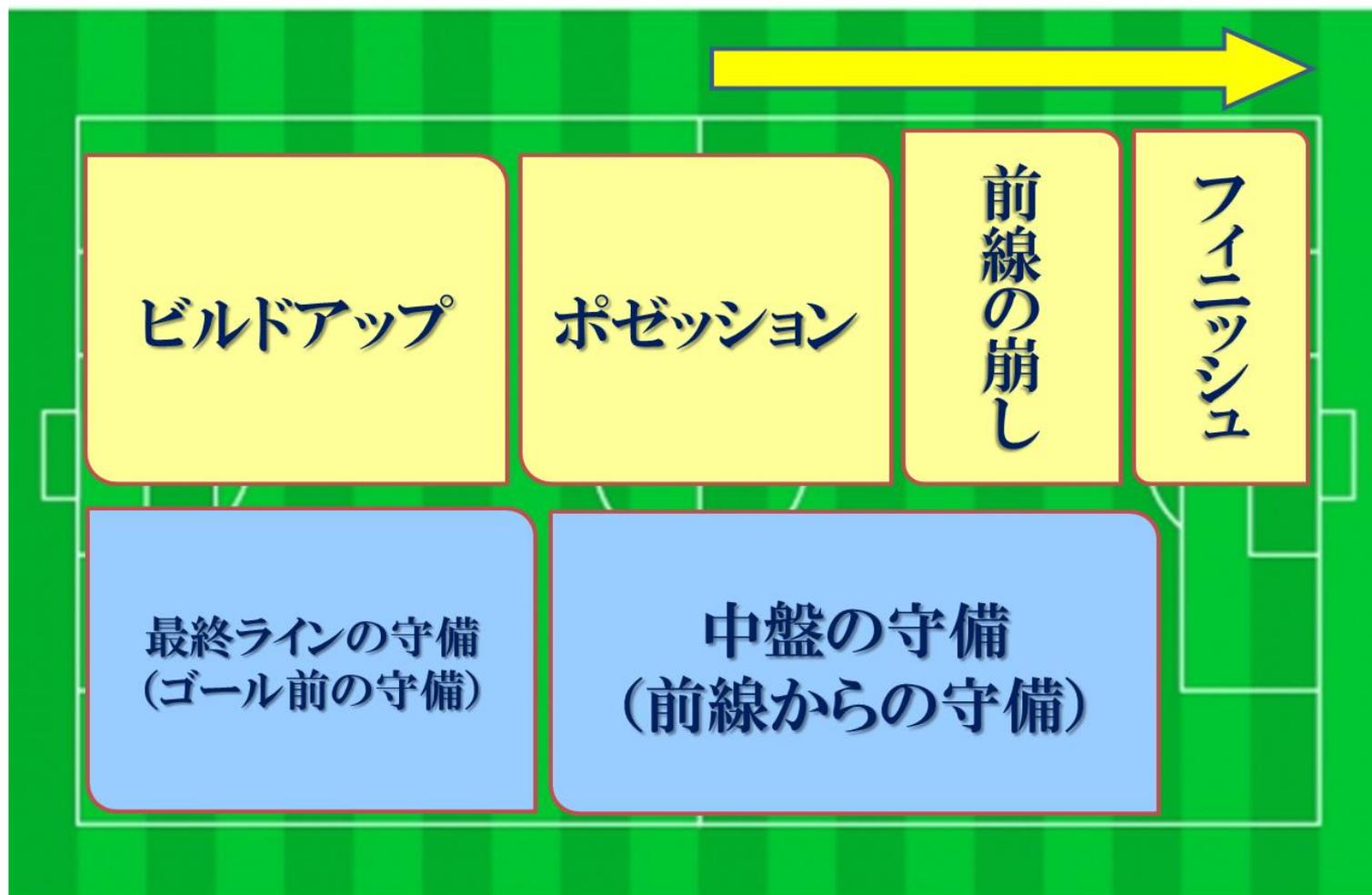
- 状況に応じて次のプレーを予測し、的確なポジションを取って、ボールを奪うチャンスを逃さない
- くさびのパスや縦パスに対する守備
 - ・守備側が数的優位にも関わらず相手を自由にしてしまう
- ロングボールに対しては、DFラインだけでなく、GKとMFラインを含めた最終ラインの選手全員が判断を共有して対応する
- 自陣ゴール前でも冷静な判断とプレーでゴールを守る
- 積極的にボールを奪いに行く中でどのように攻撃に繋げるか

県内大会

	カテゴリー	試合数	2点差以内 ()内はPK戦		5点差以上	
			試合数	割合	試合数	割合
選手権大会	U12	32	15(2)	46.8%	5	15.6%
全少	U12	32	25(4)	78.1%	1	3.1%
クラブユース	U15	66	38	57.5%	15	22.7%
		16	14(4)	87.5%	0	0%
春季総体	U15	87	50(12)	57.4%	7	8.0%
高円宮杯	U15	39	22(7)	56.4%	9	23.0%
インターハイ予選	U18	49	27(5)	55.1%	10	20.4%
選手権予選	U18	48	20(1)	41.6%	9	18.7%

今年度の取組み

6つの観点からの分析



成果と課題(攻撃)



①ポゼッション(テクニック)

<成果>

- ボールを大事にしようとするベースは高まっている
- 時間とスペースがあれば保持することができる

<課題>

- プレッシャーのある中でボールを失わない
- 相手の守備ブロックに入っていけない(縦パス)
- 動きながらのプレー(パス&コントロール)
- スクリーン(ボール保持)、ターン(前を向く)
- パススピード
- ミドル、ロングパス(距離の調節、浮き球orグラウンダー)
- ボールを失わないための関わり(サポート)

成果と課題(攻撃)



②ビルドアップ

<成果>

- ビルドアップを志向するチームは増えた
(U-16やU-18はチームコンセプトを守ろうとする背景も影響)
- 時間とスペースがあれば運ぶことができる

<課題>

- プレッシャーのある中でのビルドアップ
- GKの効果的な関わり
- パスの質、コントロールの質、サポートの質
- プレーエリアの把握(安全・確実でないプレー ⇒ 失点orピンチ)
- アドバンテージの理解と共有
(相手の守備組織の薄いところ)

成果と課題(攻撃)



③前線の崩し

<成果>

- 攻撃の優先順位を意識したシンプルな攻撃
- FWの背後へのアクションは増えてきた(タイミングは▲)
- サイドの突破・仕掛け
(個の仕掛け:ドリブル、スピード)

<課題>

- アタッキングエリアでのプレーの精度
(スルーパス、クロス、ゴール前への入り方)
- 出し手と受け手のタイミングを合わす
- タイミング良く、強いアクションを起こす
- 突破(ドリブル)する選手のサポート / 選択肢を持ったドリブル
(サポートする選手がいれば選択肢が増える)

成果と課題(攻撃)



④フィニッシュ

<成果>

- 打つという決断、思いきりの良さ
- パワーを持ってゴール前に走り込んでいく
(タイミングや駆け引きをしながらは▲)

<課題>

- 冷静に決めることができる(GKとの1vs1)
- シュートチャンスを逃さない
(ワンタッチ/打つためのコントロール)
- シュートを打たせるためのパスの質
(ラストパス)
- ミドルシュート
- 浮き球(ボレー/ヘディング)

成果と課題(守備)



⑤中盤の守備

<成果>

- 全員が守備に関わるチームが増えてきた
- 連続、連動して奪いに行く意識は高くなってきている
- 高い位置で奪える場面の増加(1stDF→予測)
- 競り合い、球際での強さ・激しさ(県内大会の上位)

<課題>

- 連続、連動して意図的に奪う
- アプローチ(間合い)
- 個で奪うテクニック(奪いきる)
- 状況に応じたポジションから奪いに行く
- ファールせずに奪いきる(不用意にFKを与えない)
- 奪ったボールを繋ぐ

成果と課題(守備)



⑥最終ラインの守備

<成果>

- GKも含めて粘り強く守るチームが増えてきた
- 自陣ゴール前での身体を張ったプレー
- ミドルシュートを簡単に打たさない(ミドルからの失点減)

<課題>

- ロングボールへの対応
- クロスへの対応
- プレッシャーをかける(余りすぎない)
- 冷静で粘り強い対応(シュートブロック、シュートコース、カバーリング)
- GKとの関係
- セットプレーの守備(不用意にFKを与えない、守り方、マーク)

成果と課題(その他)



⑦攻守の切り替え

<成果>

- ボールを失った瞬間から奪い返す意識(攻撃→守備)
- ボールを奪った後のシンプルな攻撃(守備→攻撃)
- カウンター攻撃でのチャンス増、得点増(守備→攻撃)
- スプリントの回数、距離が増えた

<課題>

- ボールから遠い選手の切り替え(攻撃→守備)
- リスク管理(カウンターを受けないために)(攻撃→守備)
- 奪ったボールを繋ぐ(守備→攻撃)
 周りのサポート
- ピンチを感じる/チャンスを感じる

今後に向けて



- 攻撃
- 守備
- トレーニング
- ゲーム(試合)
- コーチング
- 指導者

2018年に向けて



攻 撃

- ボールを止める、蹴るという精度の追求には限界はない。質の向上により、選択肢(プレーの種類)が増える
- GKがボールを保持したときも、優先順位を意識しながらFPが素早く複数の選択肢をつくることを習慣化させる
- 相手の守備を意図的に変化させて、相手を観て攻撃を仕掛ける
- ゴールを意識した中で、ボール保持者の選択肢(関わる)になることで、守備のバランスを意図的に崩せるようにサポートの質を高める
- 厳しいプレッシャーの中でもシュートチャンスをつくり、決めきるテクニックと関わりを高める
- 積極的にシュートにトライすることやゴール前での冷静な判断力を磨くことが必要

2018年に向けて



守 備

- 守備の原理・原則を理解し、守備の個人戦術の向上を図る
- ボール状況を判断しながらもロングボールやクロスに対して正しいポジションをとり続ける
- 状況に応じて次のプレーを予測し、的確なポジションをとって常にボールを奪うチャンスを狙う(正しいポジションから奪いに行く)
- ボール保持者に対して、さらに間合いを詰めて奪うチャレンジをし、コンタクトプレーを含めて奪いきる
- 「寄せる」で終わらずに、本気で「奪いに行く」ことではじめてボール保持者に規制がかかり、次のパスコースを予測してボールを奪うことにつながる
- 攻撃時のリスク管理
- ファールせずにボールを奪う守備のテクニックを身につける

2018年に向けて



トレーニング

- パススピードが上がらない中でのトレーニング、守備のプレッシャーが緩い中でのトレーニングではゲームで使えるテクニックは身に付かない
- トレーニングにおけるパススピードと守備のプレッシャーを上げ、動きながらのテクニックの向上を目指す
- テクニックの質を向上させるためには、指導者が選手のレベルに応じて高い要求をしていくことが大切であり、決して持っている基準を下げてはならない
- できるだけプレー時間を確保することで判断の回数を増やし、その中で成功と失敗を繰り返すことで徐々にレベルアップしていく

2018年に向けて



ゲーム(試合)

- テクニックと個人戦術 > チーム戦術 (U15までは)
- 攻守に関わり続けることを習慣化し、目の前の勝負にこだわり、インテンシティ&クオリティを高める
- 勝利するために自分たち(選手)で常に考えさせる(ゲームで何がうまくいって、何がうまくいっていないか、相手が何を狙っているのか、それによる相手の隙はどこにできるのか、など)
- チームの意図的な戦術行動を支えるのは、選手一人一人のテクニックとサッカー理解に基づく個人戦術の高さ (U18)
- 攻撃ではプレースピードを上げ、守備では厳しさを追求する

2018年に向けて



コーチング

- 選手の判断を奪わず、選手自らが判断して実行することを尊重しながら、足りない部分を的確に要求する
- 基準を示す(何が良いプレーなのか)
- 褒めることで基準を与える
- 見守る勇気と同時に忍耐力
 - 選手には時間が必要であることを意識する、良いものが出来上がるまでには時間がかかること、そして学び理解するには個人差があることも認識する
- 自らの経験の中で気づき、身に付けたものは、一生忘れずその状況になれば再現される。経験値が予測力になり、ゲームにおける大局観に繋がっていく
 - 思考を停止させないアプローチが自立した選手の育成に繋がっていく

2018年に向けて



指導者

- 日常のトレーニングやリーグ戦の中で高いレベルを目指し、質の向上を追求
- 失敗を恐れず、チャレンジできる環境の設定
- ポジティブなコーチング、声かけにより、選手が生き生きと自信を持ってプレーする
- ボールが来る前の「観る」ことを習慣に「攻守の関わり」に働きかけ
- 目の前の勝負にこだわらせながら、選手の将来を考えた関わり

2018年に向けて



指導者

【テクニカルニュースから抜粋】…全中TSGより

今大会の出場32チーム中、上位に進出できなかった周南市立周陽中学校(山口県)や大津市立仰木中学校(滋賀県)、3位に入った日章学園中学校などは、選手への非常にポジティブな働き掛けが多く、プレーの基準の指示も明確に行なっていた。

その影響もあり、選手自身が伸び伸びとプレーしながらも、攻守に判断があり、プレーの質を追求するサッカーを展開していた。

2018年に向けて



**我々指導者が、
本気で日常を変えていく努力を
これまで以上に！**

